

# ジギタリス属の生育特性と早期開花の可能性について

島田有紀子

ジギタリス (*Digitalis*) はゴマノハグサ科の二年草あるいは短命な多年草に分類される植物で、ヨーロッパと北東アフリカから中央アジアに約19種が分布する。最も園芸的に利用されるのは、*D. purpurea*であり、成熟して開花したときには草丈1.5m以上になり、紫紅色から白色までの多彩な花色に加え、花茎に水平に大きな花冠を咲かせる姿は極めて観賞価値が高い。

*D. purpurea*は二年草として扱われるように、花芽形成のための低温に感応するまでに一定期間の幼若期間をもち、一般には、春に播種して十分生育させた株を冬の自然低温に遭遇させ、翌年の春から初夏にかけて開花させる方法が取られている。

ここでは、ベゴニア温室周辺の植栽用として *D. purpurea* を用い、栽培期間の短縮を目指して播種後1年以内に開花させる栽培方法を検討するとともに、海外などから導入した *Digitalis* 13種について生育特性を調査した。

## 1. *D. purpurea*の早期開花のための栽培方法

1998年に平和園から早咲品種である *D. purpurea* 'Excelsior' の種子を導入して栽培し、開花した株の中から高品質のものを2年にわたり選抜し採種した種子を用いた。

これまでの観察から発芽に好適な温度は約20℃と思われる、2000年9月7日にメトロミックスを用いて播種した。9月24日に、本葉が展開した幼苗を径7.5cmのビニルポットに移植してベゴニア温室(昼温23℃/夜温13℃)で栽培した。10月24日、それらの苗を無加温のガラス室に移し、12月13日に径15cmのビニルポットに鉢上げし、引き続き栽培した。2001年3月15日、戸外に定植した。このとき、株張りは40-50cm、主茎における展開葉数は約13枚であった。4月中旬から抽台が始まり、開花は5月上旬から始まった。このときの草丈は94cm、花穂の下位節から上位節へと順々に開花が進み、花穂全体の約3分の2が開花した見ごろ時には草丈は174cmに達した(表1)。観賞期間は約1.5ヶ月であった。

園芸植物大辞典(小学館、1989)および各種苗カタログなどによると、*D. purpurea*は低温に遭遇しなければ開花しない二年草とされ、秋播きした場合には株が未熟で開花に至らないものや、あるいは早生品種を用いた場合でも草丈が低く開花するものがみられることから、春播

きする方法が示されている。しかしながら栽培期間が長いことが原因しているのか、もしくはまだ栽培方法があまり確立されていないのか、美しい花でありながら、未だ日本の家庭園芸には広く普及していないのが現状である。ここでは *D. purpurea* 'Excelsior' を用い、発芽適温が得られる時期になれば直ちに播種して無加温のガラス室で栽培することにより、必要な低温に遭遇するまでに苗を出来るだけ大きく生長させた。以上のような方法により、二年草として扱われていた *D. purpurea* を、育苗期間を約8ヶ月に短縮し、品質を低下させることなく、ゴールデンウィーク時に開花させることが出来た(写真1)。一般に開花時期は6~7月とされるが、この促成栽培により開花時期を5月に早め、しかも比較的涼しい時期であるために観賞期間を約1.5ヶ月間にすることが出来た。

なお、本種の自生地は西部地中海沿岸地方を中心とした乾いた丘や道端、岩場であり、日本と比べると冬は温暖であることが推察され、おそらく冬の間も緩やかに生長しながら5℃程度の低温に感応していくのではないかと考えられる。本年は無加温のガラス室で栽培したが、5℃くらいに加温すればより品質を高めて開花させることができると思われる。



写真1 *D. purpurea*を用いたベゴニア温室周辺

## 2. ジギタリス13種の生育特性

英国王立園芸協会ウィズレー植物園(RHS)とフランスのナンシー植物園から種々のジギタリスの種子を導入したが、文献の記載と異なる種がいくつかあり、記載と一致した13種について生育特性を調査した(表1)。栽培方法は、上述の *D. purpurea* における方法と同様であった。

*D. laevigata* および *D. parviflora* では抽台率は0%、すなわちロゼット状態であり、本種の幼若期間は他に比べ長いことがわかった。これらについては引き続き栽培し、開花に必要な条件を調査している。

表1 ジギタリス13種の生育特性

種および品種名	導入元 <sup>a</sup>	原産地	抽台率 (%)	開花日 <sup>y</sup> (月・日)	草丈(cm) <sup>*</sup>		花数 <sup>z</sup> (個)	花冠の大きさ (長さ×幅)	花色	備考
					開花始め	見ごろ時				
<i>D. cariensis</i>	RHS	地中海沿岸東部	60	5.02	103	110	125	2.1×0.7	淡黄色	
<i>D. ciliata</i>	RHS	(?)	100	5.23	23	25	9	2.7×1.8	黄色	半耐寒性
<i>D. davisiana</i>	RHS	トルコ	100	5.23	50	100	91	3.8×2.3	淡黄色に橙色の条が入る	
<i>D. grandiflora</i>	Nancy	ヨーロッパ～西アジア	60	5.24	56	65	48	4.4×2.7	淡黄色に褐色の条が入る	
<i>D. laevigata</i>	RHS	ヨーロッパ南西部	0	—	—	—	—	—	—	—
<i>D. lanata</i>	RHS	バルカン半島～西南アジア	100	5.08	95	130	116	2.8×1.7	淡黄色に褐色の脈	
<i>D. lutea</i>	RHS	南西～中央ヨーロッパ, 北西アフリカ	80	5.21	82	99	140	2.2×1.7	淡黄色	
<i>D. lutea</i> subsp. <i>australis</i>	RHS	イタリア中南部, コルシカ島	100	5.26	110	135	225	1.6×0.8	淡黄色	
<i>D. parviflora</i>	Nancy	スペイン北部	0	—	—	—	—	—	—	—
<i>D. viridiflora</i>	RHS	ギリシア, トルコ	100	5.22	53	113	54	3.5×2.4	黄緑色	
<i>D. xmeritonensis</i>	RHS	—	80	5.12	102	147	125	5.0×1.5	紅桃色	
<i>D. xsibirica</i>	RHS	—	100	5.15	105	118	112	2.2×0.8	黄色	
<i>D. purpurea</i> 'Excelsior'の選抜後代	平和園	—	100	5.03	94	174	155	5.6×2.5	赤紫～白色	

各種5株供試。調査打ち切り2001年6月30日。

<sup>a</sup> RHS, 英国王立園芸協会ウィズレー植物園(イギリス); Nancy, ナンシー植物園(フランス)。

<sup>y</sup> 第1花が開花した日。

<sup>z</sup> 第1花が開花した時点(開花始め)および花穂の約2/3が開花した時点(見ごろ時)に記録した。

<sup>\*</sup> 調査打ち切り日(6月30日)までに開花した花数。

13種において開花は5月上旬から5月下旬の間に始まり、これは園芸植物大辞典(1989)の記載よりも1ヶ月程度早く、*D. purpurea*だけでなく他種においても上述の栽培方法により開花が促成されることが分かった。また多くの種で1～1.5ヶ月半以上開花が続いた。

*D. purpurea*については、園芸品種を調査に用いたが、13種の中で最も草丈が高く、花数が多く、花冠が大きく、最も観賞価値が高かった。

*D. ciliata*の場合、他種と同様の無加温のガラス室で栽培すると低温障害がみられ、半耐寒性であることが分かった。その結果、株が傷み、5月下旬に開花に至ったものの、品質は著しく悪かった。

花色は黄色系で小輪のものが多かったが、*D. xmeritonensis*では紅桃色、*D. lanata*では花冠が褐色で下唇弁が白色、また*D. grandiflora*および*D. davisiana*では大きな黄花をもつなど、日本でまだあまり栽培されていないが園芸的に利用したい品種がみられた(写真2、3、4、5)。

### 参考文献

Hortus Third. 1976. *Digitalis*. p.385-386. L. H. Bailey Hortorium. Macmillan Publishing Co., Inc., New York.

The Royal Horticultural Society. Dictionary of Gardening. 1997. *Digitalis*. Vol. II. p.66-68.

Zohara Yaniv. 1985. *Digitalis*. p.446-449. In: A. H. Halevy (ed.). Handbook of Flowering. Vol. II. CRC Press, Inc., Boca Raton, Florida.

武田和男・塚本洋太郎. 1989. デイジタリス. P.314-315. 園芸植物大辞典3. 小学館.

田中寛幸. 1992. ジギタリス属の導入. 京都府立植物園導入記録. 日本植物園協会誌26:64-68.



写真2 *D. purpurea*



写真3 *D. lanata*



写真4 *D. grandiflora*



写真5 *D. davisiana*